

[タイム] 檜沢橋(7:55)→イの沢出合(8:00)→イの沢終了(8:55, 9:05)→ロの沢  
終了(9:40)→ハの沢出合(10:35)→檜沢終了(11:30)→尾根(11:55, 12:  
15)→鬼ヶ畑(12:30)→ハの沢下降開始(12:35)→終了(13:30)→檜沢橋  
(14:25)

### 極楽沢左俣 1989年9月9日

極楽沢林道を40分程歩くと、極楽沢左俣の出合。林道は、右俣出合にある雁取橋を渡った先から荒れている。車が入るのは、雁取橋のすぐ先までと考えた方がよい。身支度をして勇躍遡行開始といきたかったのだが、沢の方はまったく平凡なうえ荒れている。伐採時につくられた2~3m幅の作業道など、随所でズタズタにされている。平凡で時々ヤブがかかる中を、それでも20分程遡る。すると、伐採時の材木集積地に出る。ここより上部がまだ若い造林地である。沢はこの造林地の中をなおも奥へと伸びているが、細い流れにすぎなくなっており、遡行終了とする。

(記

[タイム] 極楽沢林道入口(9:10)→左俣出合(9:50)→左俣終了(10:10)

### 極楽沢中俣 1989年9月9日

極楽沢左俣の遡行終了後、いったん戻って今度は中俣に入る。林道は中俣に入っただけで終わっている。右岸一帯がまだ若い造林地である。この沢も荒れている。流木が沢を埋め、土砂が押し出している。この沢もまたハズレの沢かと思いつつ遡行を続ける。

やがてナメが出てきた。千枚岩のナメである。やや逆層ぎみ。そのせいかナメといっても沢床はデコボコである。ナメを3つほど越えたらこんどは滝が出てきた。4mナメ滝。スタンスには不自由しない。これはもうけものだと思っていたら、兩岸が狭まって小さな廊下となった。滝は2m程のものがかかるだけだが、ちょっとしたアクセントとなっている。

廊下を越えた先で右岸の造林地が終わり、樹林帯の中に入る。すると水が冷た

くなってきた。もう源頭の湧水が近くなっているという感じ。案の定、次の4 m 滝を直登したらまもなく湧水地点に出た。遊行終了11:20。 (記・

[タイム] 中俣出合(10:25)→中俣終了(11:20)

### 極楽沢右俣

1989年9月9日

12:00右俣の遊行開始。左岸を林道が並行して走っているが、この林道はすっかり荒れてしまっている。林道上を歩くのに、ヤブこぎに近い状態になるほどである。平凡なままの沢を20分程遡ると林道終点。ここまできると水量もかなり減ってきていたので、この沢は完全にハズレだと思ったら、この先急に暗い沢筋となり、深いV字谷を形成して滝が出てきた。まず4 m ナメ状の滝。右岸を楽に直登できる。そしてその先にも小滝があり、うれしくなる。ここがこの沢の核心部である。

やがて左岸が造林地となり、続いて右岸も造林地となる。もう1度暗い廊下状部分があり、小滝をかけるが、そのあと沢はますます細くなってゆく。

12:35、やぶがかぶさってきた。水量もめっきり減ってきており、ここで終了とする。

[タイム] 右俣出合(12:00)→右俣終了(12:35)

